

出資法人等評価・カルテシート (令和2年度分)

商法法人以外

1 出資法人等の概要

団体名	一般財団法人豊中市医療保健センター		
所在地	豊中市上野坂2丁目6番1号	所管部局・課	健康医療部 健康政策課
設立年月日	昭和49年3月27日	代表者	理事長 足立 佐知子
基本金・資本金	10,000,000円	うち市出資額(率)	5,000,000円(50.0%)
設立目的	豊中市医師会、豊中市歯科医師会、豊中市薬剤師会及び豊中市の連携に基づき、豊中市の地域医療体制を確立し、もって地域住民の健康の維持及び福祉の充実を図り、公益の増進に寄与することを目的とする。		

2 役員・職員関係

各年4月1日現在

		H30			R元			R2		
		市職員	市OB		市職員	市OB		市職員	市OB	
役員	常勤	0	0	0	2	0	1	1	0	1
	非常勤	10	3	0	10	3	0	11	4	0
職員	常勤	56	0	0	54	0	0	10	0	0
	非常勤	119	2	2	126	2	1	80	2	0
役員の平均年間報酬 (R元年度、千円) ※常勤のみ		*			職員の平均年間給与 (R元年度、千円)・平均年齢 ※常勤のみ			6,481千円・49.5歳		

※非常勤職員には、非常勤嘱託職員である休日等急病診療棟に従事する医療従事者を含む。

3 財務関係

		金額(千円)		
		H29	H30	R元
損益計算書	総収入	958,623	921,976	947,220
	(うち市受入金)	298,263	329,167	367,698
	総費用	1,007,921	995,420	1,115,465
	経常損益	▲74,181	▲91,372	▲60,801
	当期損益	▲49,298	▲73,444	▲168,245

		金額(千円)		
		H29	H30	R元
貸借対照表	資産の部合計	536,890	485,092	698,780
	負債の部合計	253,007	154,430	656,586
	(うち有利子負債)	0	0	0
	純資産	283,883	210,438	42,193
	利益剰余金	280,883	207,438	39,193

4 市の財政的関与の状況

(単位：千円)

		H29	H30	R 元	主な内容、算出根拠等
フロー	補助金	—	—	—	
	事業費	—	—	—	
	運営費	—	—	—	
	委託料	114,240	117,796	103,677	休日等急病診療事業、障害者歯科診療事業、二重読影会事業、地域包括支援センター事業
	指定管理委託料	0	0	0	
	その他	184,023	211,371	264,021	負担金
計		298,263	329,167	367,698	
ストック	貸付金残高	0	0	250,000	
	債務保証残高	0	0	0	
	損失補償残高	0	0	0	
	出資金				
	その他	5,000	5,000	5,000	出捐金 5,000 千円のうち、1,500 千円が基本財産
計		1,500	1,500	251,500	

5 経営の状況

(1) 出資法人等の主な事業

事業名	事業内容	活動指標	H29	H30	R 元
休日等急病診療事業	休日等における豊中市内の初期救急医療機関として、内科・小児科・歯科の診療を行う。	受診者数	6,157 人	6,326 人	6,494 人
障害者歯科診療事業	心身に障害があり、一般の歯科医院での治療が困難な患者を対象に歯科診療を行う。	受診者数	1,991 人	1,926 人	1,877 人
在宅ねたきり者等訪問歯科診療事業	在宅でねたきりの状態にあり、歯科医院への通院が困難な患者を対象に、居宅に訪問して歯科診療を行う。	受診者数	225 人	232 人	258 人
保健・福祉施設訪問歯科診療事業	豊中市内の保健・福祉施設に入所しながら歯科診療を必要とする患者を対象に、訪問歯科診療を行う。	受診者数	878 人	977 人	1,070 人
介護老人保健施設事業	自立した日常生活に必要な身体の機能回復を目的に、高齢者の機能回復を目的に、高齢者の機能訓練を行う介護老人保健施設を指定管理者として運営する。	入所者数 通所者数	入所者 33,823 人 通所者 8,075 人	入所者 31,554 人 通所者 7,683 人	入所者 30,558 人 通所者 6,861 人

(2) 財務指標

指標	視点	内容	H29.	H30	R 元
市受入金比率 市受入金／経常収益×100	自立性	市への財政的依存度を表わします。一般的に数値が低いほど、財政的に自立性が高いといえます。	31.9%	36.4%	39.4%
人件費比率（％） 人件費／経常費用×100	効率性	数値が低いほど財務の弾力性が高いといえます。総支出における相談業務等のマンパワーが業務の中心となる団体については高くなる傾向にあります。	60.8%	61.2%	57.9%
管理費比率（％） 管理費／経常費用×100	効率性	コスト体質を表すもので、一般的に数値が低いほど効率が良いとされます。	7.9%	10.7%	9.1%
正味財産比率（％） 正味財産合計／（負債＋正味財産合計）×100	安全性	負債及び正味財産合計に対する正味財産合計の割合。自己資本の比率が高いほど資本構成が良く、経営の安全性が高いといえます。	52.9%	43.4%	6.0%
固定比率（％） 固定資産／正味財産合計×100	安全性	正味財産合計に対する固定資産の割合。固定資産を返済不要な正味財産合計でまかなわれているかを表わします。100%未満であれば安全性が高いといえます。長期的な経営の安全性を示しています。	116.6%	157.1%	786.5%
流動比率（％） 流動資産／流動負債×100	安全性	1年以内に返済を要する負債に対する1年以内に資金化できる資産の割合。数値が高いほど支払い能力が高いといえます。100%を下回る場合は注意が必要です。	287.3%	205.5%	113.4%

(3) その他

ア 給与体系

区分	<input type="checkbox"/> 独自体系 <input checked="" type="checkbox"/> 市の体系を準用 <input type="checkbox"/> その他（ ）
見直し予定	<input type="checkbox"/> 予定あり（ 年度予定） <input checked="" type="checkbox"/> なし <input type="checkbox"/> 済み（●年●月）

イ 情報公開

公開ツール	<input checked="" type="checkbox"/> ホームページ（URL：http://www.tmhc.or.jp/） <input type="checkbox"/> 広報紙 <input checked="" type="checkbox"/> 事務所備え付け <input type="checkbox"/> その他（ ）
公開内容	<input checked="" type="checkbox"/> 定款 <input type="checkbox"/> 役員名簿 <input checked="" type="checkbox"/> 事業計画 <input checked="" type="checkbox"/> 事業報告 <input type="checkbox"/> 経営計画 <input checked="" type="checkbox"/> 財務諸表

ウ 指定管理者の状況

施設名	指定管理期間	備考
豊中市立介護老人保健施設かがやき	平成28年4月1日～ 令和2年3月31日	

6 経営上の課題

<ul style="list-style-type: none"> ●地域医療におけるセーフティネットの役割を担う体制の維持に必要な、安定した財源の維持 ●組織の自律的なマネジメントを維持するための次世代を担う人材の確保 ●実施事業の改廃及び新規事業の開拓など、新たな収益機会の確保

7 経営改革の取り組み（令和元年度）

項目	取り組み内容	今後の課題・方向性
経営改善への取り組み	「経営改革プラン」に基づき、「人づくり・組織作り、事業・業務の見直し、地域	「経営改革プラン」は、実施の最終年度となっており、取り組みの達成に努めると

	<p>における新たな役割の確立、財務体質の改善」といった視点からの課題解決に対する取り組みを進めてまいりました。</p>	<p>ともに、当法人の設立趣旨に則した事業を継続して担えるよう、これまでの改革プランを踏まえつつ、新たな方向性等の検討に着手してまいります。</p>
<p>事業・業務の見直し</p>	<p>豊中市立介護老人保健施設かがやきの民間移譲に伴う当該施設で実施する介護保険三事業の廃止にあたり、提供するサービス水準の維持及び収支改善への取り組みと事業継承法人への円滑な引継ぎを特定重要課題とし、豊中市と協力して進めた結果、サービスの水準を維持しつつ、事業の引継ぎを滞りなく完了させました。</p> <p>旧豊中看護専門学校の跡地活用につきましては、別館の活用策として、豊中市が推進する「地域包括ケアシステム・豊中モデル」の構築に貢献しうる、医療・介護・福祉の人材育成に係る事業を協働して実施する事業者を公募し、複数の提案のなかから選定し、実施に向けて協議を行いました。</p> <p>本館部分の活用策に関しましては、健診（検診）事業実施の可能性を模索してきました。事業の方向性としては、障害者（児）向けの健診や乳幼児健診の受託化といった多額の投資を伴わずに準備できる事業から着手していくことに結論づけました。</p> <p>健康教育センターの事業の充実を図るため、健康に関する正しい知識の普及を企図し、平成 30 年度から試行的に実施した健康講演会を毎月実施しました。</p> <p>「人づくり・組織づくり」に関する取り組みとして、人材育成基本方針に則り、評価基準を策定しました。</p> <p>また、各方面において課題解決のための取り組みを推進し、予算管理システムの簡素化を図り、帳票の種類を減らしました。</p>	<p>別館を活用する「医療・介護・福祉の人材育成」に関する事業につきましては、協働して実施する事業者からの提案をもとに、協議を進め、事業の実施に向けた活動を行ってまいります。</p> <p>本館部分の活用策に関しましても、令和元年度に結論づけた方向性に基づき、準備を進めてまいりたいと考えております。</p> <p>また、健康教育の一環として実施する健康講演会に関して、実施目的の達成に向け、テーマの設定や広報の方法等に工夫を重ねてまいります。</p> <p>「人づくり・組織づくり」に関しまして、人材育成基本方針に則り策定した評価基準は、市に準じた内容となっておりますが、かがやきの事業廃止により小規模な体制となりますので、医療保健センターの組織体制や人事制度を規模に応じたものとすることも含め、新たな視点から見直しを検討してまいります。</p>
<p>収益の確保</p>	<p>休日等急病診療では、大型連休中やインフルエンザ流行期の患者数の大幅な増加に備え、診療体制を整え、効率的な診療を提供いたしました。</p> <p>訪問歯科診療において、診療報酬の算定項目の点検に取り組み、新たな診療報酬を算定できる体制の整備、定着により、安定</p>	<p>引き続き効率的かつ安定的な運営に努めるとともに、法人の設立趣旨を踏まえたうえで、新たな収益機会の確保につながる持続可能な事業の検討を進めてまいります。</p>

	して収益を確保することができました。	
--	--------------------	--

8 出資法人等の自己評価

評価の視点	評価	今後の取り組み方針
必要性 ・実施事業は、社会状況、環境変化や市民ニーズに適合しているか	<p>診療所の各事業は、豊中市域における休日の初期救急医療機関として、また、一般の歯科医院での治療や通院が困難な患者のセーフティネットとして、より充実が求められる状況となっています。</p> <p>災害時の医療救護所の開設が決定されたときには、開設場所となることが想定され、さらに重要性が増すと考えられます。</p>	<p>診療所の各事業におきましては、今後も、患者数の動向に応じた適切な診療体制の確保など、効果的な医療を提供します。</p> <p>看護専門学校の跡地活用につきまして、方向性が定まった事項から順に実施に向けて取り組んでいくとともに、引き続き、当法人の設立趣旨に則り、市民ニーズに合致した新規事業の絞り込みにも取り組んでまいります。</p>
効率性 ・人的・物的な経営資源は有効に活用しているか ・組織体制、人事給与水準は適正か	<p>業務内容の精査を行い、適切な職員配置に努め、効率的かつ効果的な事業運営に取り組んでおります。</p> <p>かがやきでの介護老人保健施設事業、居宅介護支援事業ならびに地域包括支援センター事業につきましては、事業の廃止が決定していましたが、限られた人員配置のもとで、利用者の皆様にこれまでと変わらず安全に安心して利用していただけるよう努め、利用者数を大きく減らすことなく運営することができました。また、業務の引継ぎに関しましても、事業継承法人や市と連携し、円滑に終えることができました。</p> <p>人事給与制度につきましては、市に準じた内容となっておりますが、平成27年度を最後に、人事院勧告の実施を見送っており、また、令和元年度には、管理職員の給料の3%カットを実施しています。このことから、給与制度に関しては、医療保健センターとして状況に応じ適正化に取り組んでおります。</p>	<p>引き続き人件費及び管理経費の見直しに取り組み、経費の節減を図ってまいります。</p> <p>人事給与制度の見直しにつきましては、市に準じた内容の評価基準を策定しましたが、経営改革プランを推し進めていくなかで、医療保健センターの組織体制や人事制度を規模に応じたものとすることも含め、新たな視点から見直しを検討してまいります。</p>
有効性 ・意図する成果に有効に結びついているか	<p>設立の背景から、医師会、歯科医師会及び薬剤師会と有効に事業連携ができています。</p> <p>三師会、市との連携により、災害時における医療救護の拠点となり、地域のセーフティネットとしての役割を担うことも想定され、ますます重要となっております。</p>	<p>三師会、市との連携を一層強化し、地域医療の拠点の一つとして機能を高めてまいります。</p>
総合評価	<p>施設内に三師会の事務所があり、意思決定の拠点となっていることから、連携拠点として優位性を保っています。</p> <p>事業実施については、自己の施設、独自のノウハウ及びネットワークを活かし、安定的な体制を維持するとともに効率的に、高いサービス水準を維持しています。</p>	<p>地域医療の確立が支える医療・介護分野におけるセーフティネット機能に対する市民の期待は、今後も増大することが見込まれます。さらに、社会情勢の変化に伴う課題の複雑化に備え、法人の内部組織のあり方を検討するとともに、安定的な運営に向け、マネジメント強化を図る必要があります。</p> <p>このため、これらの課題に対処できるよう体制を確保するとともに人材の育成に取り組めます。</p>

9 市による評価

評価の視点	評価内容	課題・方向性
<p>団体の存在意義 (必要性)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・出資目的は薄れていないか ・市の施策の方向性に適合しているか 	<p>診療所の各事業は、豊中市の地域医療体制を確立し、地域住民の健康を維持する目的を踏まえ、豊中市域における休日の初期救急医療機関として、また、一般の歯科医院での治療または通院が困難な患者のセーフティネットとして、市民の健康を守るものとして重要なものとなっています。</p> <p>また、有事の際には、緊急の医療救護施設としての運用も期待され、今後より一層重要な医療機関として位置付けられるものとなっております。</p>	<p>診療所施設の設備や備品の老朽化、利用者数が横ばいになっていることにより、今後どのようにサービスを提供するかが課題となっています。</p> <p>一部診療業務は医療保健センター自主事業として運営することが来年度より予定されているので、今後より充実した事業運営に向けた検討を引き続き行っていただきたいと思ひます。</p>
<p>団体の活動領域 (効率性・有効性)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・出資法人等を活用するメリットはあるか ・出資法人等にしかできないことか 	<p>施設内に三師会の事務局があることにより、地域住民の健康及び福祉の増進に寄与するための連携拠点となっています。また、医療と介護、福祉をつなぐ連携拠点としての機能も併せもって活動を行っており、自身のメリットを活かしながら事業を行っていると考えます。</p>	<p>今後も、三師会の事務局が施設内にあるメリットを活かし、地域住民の健康及び福祉の増進に寄与する連携拠点として、医療と介護福祉をつなぐ連携拠点として、活動を進めてもらいたいと思ひます。</p> <p>また、新たな自主事業実施による運営収入を活用し、安定的なセンターの運営に向けた検討も引き続き行っていただきたいと思ひます。</p>
<p>団体と市との関係性 (効率性・有効性)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・事業の成果が市の施策の推進にどれだけ貢献しているか ・市の関与は適切か 	<p>休日等急病診療、障害者(児)歯科診療事業により、地域住民の健康を守ることにより、第4次豊中市総合計画における「安全に安心して暮らせるまちづくり」の推進に寄与していると考えます。</p>	<p>引き続き、第4次豊中市総合計画における「安全に安心して暮らせるまちづくり」に寄与できるように、休日等急病診療、障害者(児)歯科診療事業の充実を図ってもらいたいと思ひます。</p>
<p>総合評価</p>	<p>豊中市と三師会の出資による法人として、各々と協力しながら地域住民の健康と福祉を増進するために引き続き事業を行っていることは、評価いたします。</p> <p>一方、自己評価にあるように人件費構造の再構築の必要性を意識して、人件費の適正化を図ることについてはまだ不十分であると考えます。</p>	<p>豊中市と三師会の出資による法人としてのメリットを活かし、今後も相互に連携を図りながら現行の事業だけでなく、他に何か自分たちにできることはないのかを考えて事業を進めてもらいたいと思ひます。</p> <p>今後、医療保健センターの安定的な財政運営を見据えた人件費の適正化に向け、具体的な対策について検討を行い、速やかに作業を進めてもらいたいと思ひます。</p>